



今、つらい人に寄り添う | ミャンマー大地震支援

ミャンマーで起きた大規模な洪水、 地震緊急支援を実施



topics

ミャンマー
—ザガイン地域、マンダレー地域、
シャン州など

1 被災し、今困っている人々に
緊急支援物資をお届け

2 団体間の連携の大切さを
実感

2024年9月、猛烈な台風11号は熱帯低気圧に変わった後、ミャンマーに記録的な大雨をもたらし、洪水の被害は広範囲に及びました。そして2025年3月、中部でM7.7の大地震が発生しました。震源地のザガイン近郊をはじめ、当会の事業地シャン州でも大きな被害が出ました。ミャンマーの人々は2021年の政変以降、厳しい生活を強いられています。それに追い打ちをかけるような自然災害。貧困率が5割に及ぶ中で、今も絶望や不安と戦いながら人々の生活が続いている。私たちは2003年の活動開始後、多くの現地団体と信頼関係を築いてきました。そのネットワークを活かし、被災者の方々に緊急支援物資をお届けしました。

地震被災者の声

Tさん

去年の9月に洪水で被害を受け、やっと落ち着いて家で生活ができると思っていた矢先の地震でした。また何もないところから始めなければならないのかと、呆然としました。アクセスが難しいところに住む人々はまだ支援物資を受け取れない人たちもたくさんいます。私たちが困っている時に、日本から助けてくれて本当に感謝しています。

実施概要

受益対象者 | 3,044世帯、約15,000人
支援者 | 地震緊急支援への寄付者の皆様555人
従事者 | 20人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など



今、つらい人に寄り添う | トンガ・災害後の復興支援

トンガで防災教育事業を実施



トンガ
— トンガタブ島、ハアパイ諸島

topics

1 トンガハイスクールで
防災教育事業を開始!
2025年度も継続実施予定

2 東洋大学との協働研究で
レジリエントなコミュニティ
づくりを目指す

奨学金に続き、2つ目の事業となるトンガハイスクールにおける防災教育を「佐賀県協力隊を育てる会」との協働で実施しました。7月には防災教育ワークショップ、11月には避難訓練を現地で実施。保護者への引き渡し訓練の必要性も確認し、2025年度も継続して実施予定です。本事業には共同研究を行う東洋大学・松丸教授も専門家として参加。またレジリエントなコミュニティを目指し、地域開発の専門家・岡本教授も現地調査を行いました。またスタッフが1ヶ月現地NGOでの研修を行い、ニーズ調査と関係構築が進みました。トンガと佐賀市の交流も開始し、2025年度は学びと友好を深める年になりそうです。

参加者の声

Anaさん
Tonga High School校長



防災教育は非常に有益で有意義でした。世界で最も低く平坦な島に住む我々にとって、この研修は生徒や教職員にとって大きな自信と防災意識の向上に繋がりました。今年新たに約500人の新入生と30人の教員を迎える。この防災教育が継続され皆で学びを共有することで、次に津波の危険に直面した際により備えた行動ができると確信しています。

実施概要

受益対象者 | 約1,300人
支援者 | さとおやさん9人
従事者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

株式会社成田空港ビジネス
株式会社クリアオペレーション
東洋大学



今、つらい人に寄り添う | ウクライナ避難民受け入れ支援

これからはウクライナ避難民も 佐賀に暮らす地域の一人として



日本
一
佐賀県

topics

1 ウクライナ避難民が自立し
地域に根ざすための地盤作りに
注力した一年

2 月1回のネットワーク会議
も継続実施中

2024年度は、ウクライナ避難民の新規受け入れではなく、現在佐賀に暮らす避難民の自立に向けた支援を考える一年となりました。2023年度から始めた避難民を講師とする「ウクライナ理解講座」シリーズを継続しながら、他団体や企業・士業の方々と連携し、災害勉強会や起業相談会の開催など、今後、避難民が佐賀や日本国内で生活、就労していくことを見据えた企画を展開しました。年度末には、支援者の方々とウクライナ避難民、ネットワークメンバーを交えた交流会を実施し、これまでのご支援に感謝を伝えるとともに、これから進学や帰国により佐賀を離れる避難民の方々にエールを送る好機となりました。

支援者の声

法村孝樹さん

朝日テクノ株式会社
代表取締役



地球市民の会との関わりは、SDGsを推進していくいたしたことからの始まりです。地球市民の会の様々な活動を知り、共感した事で世界中の人々が笑顔になれるよう、微力ながら協力したいと考えた次第です。主な支援は、ウクライナ避難民がリフレッシュできるようなイベント、トンガの子どもたちへの奨学金の寄付などになります。

実施概要

受益対象者 | 21人

支 援 者 | 46人

従 事 者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

SAGA Ukeire Network～ウクライナひまわりプロジェクト～ | 公益財団法人日本財団
公益財団法人佐賀未来創造基金 | 朝日テクノ株式会社
認定NPO法人難民支援協会 (JAR)
NPO法人日本ウクライナ友好協会KRAIANY
学校法人佐賀龍谷学園 | 一般社団法人佐賀災害支援
プラットフォーム (SPF) | HOUSE・KOMORA
佐賀県行政書士会 | 佐賀友の会



世界とつながる機会をつくる | SDGs 推進プログラム

今年も佐賀でSDGs学習と国際交流！ SDGs Academy SAGA 2024



topics

日本
—
佐賀県

1

東アジアの共通SDGsを
日中韓の学生で共有し、
国を超えた交友関係を構築

2

佐賀県内のホストファミリー
との交流促進！

創設当初から行ってきた事業の1つである国際交流事業。2024年度は、昨年に続き対面開催！研修最初のホームステイでは、県内5家庭に受け入れていただき、様々な観光地を巡り充実した交流となったようです。研修は「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマとし、講師の方々からSDGsや性の多様性、男女役割分業の変遷、政治参加への大切さなどについて教わり、ディスカッションも多く取り入れられました。また、学びの集大成として発表会も行い、その他にも、佐賀市内で文化体験をするなど、参加者学生同士の交流も促進するプログラムとなりました。

参加者の声

高元永さん
韓国学生参加者



SDGs Academyを通じて様々な経験をすることができました。講義を通じて、韓中日間のジェンダー問題は似たような傾向があることが分かり、グループ発表では更に詳しく知ることができました。ホストファミリーと中国と日本の友達との思い出は忘れられません。SDGsへの関心がさらに深まりましたし、来年機会があれば参加したいです。

実施概要

受益対象者 | 32人
支 援 者 | ふるさと納税127人（のべ数）
従 事 者 | 9人+ボランティア2人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

社団法人釜山韓日文化交流協会 | 上海海洋大学外国语学院日语系 | 上海商学院商务外国语学院日语系
Mimosequal | 公益財団法人佐賀県女性と生涯学習財団
国立大学法人佐賀大学教育学部 | 佐賀LGBTs支援団体
SOiGIEs | yorokobi企画 | 特定非営利活動法人難民を助ける会 | ロッキー株式会社ロイヤルトラベル
佐賀インターナショナル・ゲストハウスHAGAKURE



世界とつながる機会をつくる | ミャンマー農業・コーヒー事業

日本からミャンマーコーヒーを応援する



topics

日本
—
ミ
ヤ
ン
マ
ー
—
各
地
—
チ
ン
州
—
ラ
イ
レ
ン
ピ
ー
町

1 コーヒーアンバサダー
70名突破!

2 今年の収穫720kgに。
各地のイベントやオンラインで
コーヒー販売中!

ライレンピーコーヒー事業は7年目を迎えました。現地の農家を応援するコーヒーアンバサダーという支援制度を設けています。現在72名のアンバサダーさんがいます。「母親のいる介護施設でミャンマーの方にお世話になっているので、自分も何かしたい」など、それぞれ想いを持ちアンバサダーになってくださっています。また、毎月違うロースターに焙煎を依頼しており、「生豆が綺麗」とお褒めの言葉をいただくことも増えました。日本に到着してからもライレンピーコーヒーは様々な方に支えられていることを実感しました。

支援者の声

中根 緑さん



チン州のコーヒー栽培を応援する活動に参加し、毎月送っていただく美味しいコーヒーも飲むことができ、自分のささやかな支援が現地の自立に繋がっていることが実感できます。毎月届くコーヒー豆を通して、コーヒー栽培の状況を知り、現地の方々、日本の焙煎してくださる方々とのつながりも感じられ、持続的な支援の形としてとても素敵だと思います。

実施概要

受益対象者 | 約1,400人

支 援 者 | 4人

従 事 者 | 72人+ロースター12人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

チアコーヒー | 喫茶ニュー泡 | ヨイマメ珈琲
ZELKOVA COFFEE | アトリエKamin
就労継続支援B型事業所GENIUS (ジーニアス)
珈琲焙煎体験豆当番 | cafe MARUGO
FELLOW COFFEE | OK COFFEE | マッハコーヒー
Blackwell Coffee | 就労継続支援B型ミラクル5



地域を元気にする | 在日外国人支援・セーフティネット

佐賀の在留外国人を守る セーフティネットを基盤にした地域づくり



日本
—
佐賀県

topics

1 2024年9月、休眠預金
活用事業によるセーフティ
ネット構築事業開始

2 準備会の継続実施

本事業は、災害時に在留外国人が支援から取り残されないようにするために開始しました。佐賀で暮らす外国人住民の中には、支援を受けるだけでなく、地域住民として役割を持ち、困った方々へ支援ができる方も多いと考えています。そのような方々とチームを組み、災害時の準備をしておきたいと考えています。今年度は、佐賀県内の様々な方々を対象に本事業を知ってもらいながら、地域住民同士の顔の見える関係の構築をするための交流会や災害・防災の知識を増やすための研修会など様々な活動を実施していきます。活動を通して、災害時のみならず平時にも支え合える仕組みを構築していきます。

支援者の声

矢富明徳さん
公益財団法人佐賀県国際
交流協会(SPIRA) 課長



「災害時に外国人は支援される側だけではなく、支援する側にもなる」近年、全国的に研修会等でよく耳にするようになりましたが、そのための取組はまだ多いとは言えません。そのような中、佐賀で実際に動き出したこの取組はとても素晴らしいと思っています。これから事業が進み、活躍する外国人の姿を楽しみにしています！

実施概要

受益対象者 | 未定人
従事者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム
一般財団法人日本民間公益活動連携機構 (JANPIA)
公益財団法人佐賀県国際交流協会 (SPIRA)
佐賀県多文化共生さが推進課 | Famigo株式会社
福井県産業労働部国際経済課国際交流・多文化共生
グループ | 公益財団法人福井県国際交流協会
岡山県総社市 | 岡山県岡山市
KUMAMOTO KURASU (くまもとくらす)



地域を元気にする | こどもの居場所づくり事業

こどもの居場所を広く周知し、
参画者の拡大を目指す



日本
—
佐賀県佐賀市

topics

1 佐賀市内の既存居場所、
新規立ち上げ希望4団体の
相談対応・伴走支援を実施

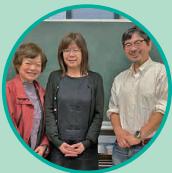
2 参画者を拡充するための
ボランティア用公式ラインの
運用開始。登録者90名突破

受益者の声

(左から) 郡山桂子さん、
原清子さん、湯川洋久さん

フリースペースひつじ

昨日地球市民の会に電話したのがきっかけで、今も継続的に立ち上げを支援いただいている。当初はスタッフ数名と場所、居場所を作りたいという思ひがあるだけでした。行政や社協、地域の方等と繋いでいただき、協力者との繋がりの大切さを感じています。今後「ひつじ」を好きになってくれる子が増えることを願っています。



佐賀市の委託8年目を迎え、引き続き既存居場所の運営フォロー及び新規立ち上げ希望者4件の相談に対応。居場所について広く周知し、参画者を増やすため、佐賀市や他団体と3者共催で「佐賀市こどもの居場所サミット2025」を実施し、130名の方に参加いただきました。また、ボランティア用公式ラインを立ち上げ、ボランティア希望者が自由に登録し、気軽に居場所へアクセスできる環境を整えました。その他、子どもたちの活躍の場づくりを目的としたイベント『どんぐりキッズ市場』の開催や、郵便局とのフードドライブ連携強化、および企業と居場所とのコラボ活動におけるコーディネートも実施しました。

実施概要

受益対象者 | 子どもの居場所団体30件

支援者 | 団体・個人65件

従事者 | 2人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

佐賀市 | 佐賀市社会福祉協議会 | 佐賀女子短期大学
日本郵便株式会社 佐賀北部会 | 株式会社ミズマチ
第一生命 佐賀支社 佐賀東オフィス | 佐賀大学
SAGA COLLECTIVE | 株式会社プレースホーム
大東建託株式会社 佐賀支店 | 一般社団法人さが・
こども未来応援プロジェクト実行委員会 | 認定特定
非営利活動法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
循誘子どもの居場所づくり実行委員会
佐賀県『食』でつながるネットワーク協議会



地域を元気にする | ミャンマー環境保全・植林事業

地域と環境に寄り添う、 持続可能な農業プロジェクト



ミャンマー
—
シャン州、
リシケー
地域

topics

1 試行錯誤を乗り越え、
3年の事業が無事完了！

2 環境と地域を守り続ける、
これからの挑戦！

コーヒーを中心としたアグロフォレストリーの普及を目指した3年間の事業が無事に完了しました。この事業は、地域情勢により事業地の変更を余儀なくされ、新たな場所で一から再構築する必要があるなど、多くの調整が求められる困難な状況でしたが、現地スタッフや関係者の協力と理解のもと、試行錯誤を重ねながら最後まで走り抜けることができました。研修や植林、畜産の導入を通じて地域の人々の意識も高まり、持続可能な農業への関心が深まっています。今後も、地域資源を活かした持続可能な農業を推進し、環境と人々の暮らしを守るとともに、さらなる地域の発展に貢献する活動を継続していきます。

担当者の声

サイ・トゥン・エー
タウンジー事務所スタッフ



この事業のおかげで、切られていく森林を守ることができました。農業と畜産を組み合わせ、畜産の収入でアグロフォレストリーのモデル農園に給水施設を整備しました。今回の活動がモデルとなり、地域の人々も真似をして植林やアグロフォレストリーを始めるようになりました。その様子を見て、嬉しく思います。ご支援ありがとうございます。

実施概要

受益対象者 | 約1,400人
従事者 | 5人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

地球環境基金（独立行政法人環境再生保全機構）



地域を元気にする | ミャンマー環境保全・ゴミゼロ事業

未来の環境を守るために、
今できることをひとつずつ



topics



ミャンマー
シャン州、リンケータウンシップ
シーサインタウンシップ

1 アグロフォレストリー農法で、
環境を守りながら収入向上を
目指す

2 若者主導のゴミプロジェクト。
分別で資源化し、ゴミを出さ
ないゴミゼロ村を増やす

裨益者の声

ナン・セインティさん



私たちの村と学校にゴミ箱、ゴミばさみ、手袋を支援してもらいました。研修を受け、プラスチックには多くの悪影響があることや、ゴミが病気を引き起こす可能性、川に捨ててはいけないこと等を学びました。環境や動物にもよくないですし、川にゴミを捨てる、最終的には人もゴミを食べることと同じになります。私は研修を受け、ゴミを捨てるのをやめました。

情勢が悪化するミャンマーにおいて、環境保全は二の次と思われるかもしれません。しかし、確かにこの地で生活する人々がいて、未来を生きる子どもたちがいます。次世代に少しでも豊かな環境を残すために、環境保全活動に取り組んでいます。アグロフォレストリー農法として、森の中にコーヒーを植えることで環境を守りながら収入獲得の手段を増やしました。収穫はまだ先ですが、地域で「コーヒーを植えた森は絶対に木を切らない」という約束を作りました。また、若者が中心となって村に「ゴミ委員会」を作り、ゴミの収集、分別指導、ゴミ拾いキャンペーンなどを実施しました。地域のモデルとなるゴミゼロ村が徐々に広がりを見せています。

実施概要

受益対象者 | 約1,000人

従事者 | 5人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

公益財団法人 国土緑化推進機構

公益財団法人 りそなアジアオセアニア財団



地域を元気にする | ミャンマー電化事業

電化を通じて豊かな生活と未来を作る



topics

ニヤンマー — シャン州、ピンマウンタウン、シーサインタウン、シップ、ナーカイ地域

1 生活向上!再エネで 変わるミャンマーの明日

2 無電化村で電気が使える ようになり、大きく広がった 可能性

ミャンマーの山岳地域で再生可能エネルギーを活用し、地域住民の生活向上を実現しました。電力供給により、電気による給水や調理の効率化、農産物加工の生産性向上が達成されました。地域の資源を有効に活用できるよう地域産業促進の研修や、環境保全研修も実施しました。また、施設を作るだけではなく大切に、そして長く使っていくために、住民主導の維持管理体制を整備しました。停電が非常に多いミャンマーにおいて、再生エネルギーを活用した小規模水力発電は、益々需要が高まっています。

被益者の声

クン・アウン・ジーさん

ピントン小水力発電・ 飲料水供給プロジェクトの委員



私たちの村は辺鄙な場所にあり、生活は困難でした。以前はソーラーパネルの薄暗い照明を使っていましたが、今は電気が通り、どの家も明るく照らされています。村の皆が、夜にテレビを見たり音楽を聴いたりして疲れを癒せるようになりました。子どもたちも明るい中で勉強できています。是非私たちの村にお越しください。

審施概要

受益対象者 | 3,600人

從事者 | 7人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

外務省



地域を元気にする | 災害支援研修事業

災害の「危機」を協働を通して解決していく

日本
一
佐
賀
県

topics

1 行政、社会福祉協議会、企業、CSOが連携構築に向けた1年

2 能登半島地震から学ぶ佐賀での地震への備え

近年、頻発する災害に対して、県内行政、社会福祉協議会、企業、CSOがそれぞれできる部分を担い、連携を通じた支援を行った行くため研修会を実施しました。発災すると、物資不足、避難所運営、ペット問題、家財搬出などのボランティア不足など様々な問題、課題が複雑に絡み合っています。各団体にはそれぞれの強みがあり、その強みを活かしきれた時に被災者の課題に応える活動になるかと思います。この研修会は一般社団法人佐賀災害支援プラットフォームが中核となり、運営部分を当会が担いました。また、2024年1月に発生した能登半島地震への支援活動も県内の団体を募り実施しています。

連携団体の声

小松美佳さん
社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会 まちづくり課長



地球市民の会の皆様とは、災害に備えた繋がりづくりや被災者支援の体制構築に向けた研修会等で一緒にしています。災害時には、私たち社会福祉協議会だけではなく、行政・CSO・企業等との連携・協働による支援活動の展開が期待されています。その実現に向け、今後も「顔の見える関係づくり」とともに推進できれば幸いです。

実施概要

受益対象者 | 306人

従事者 | 4人

ご支援・応援・連携いただいた企業や団体など

一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム
佐賀県
佐賀県社会福祉協議会



学ぶ機会をつくる | 地球市民奨学金

奨学金支援を通じて 世界の子どもたちとつながりを



topics

ミャンマー
スリランカ
— ゴール市
シャン州

1 タンボジ生、
日本語能力試験N5合格！

2 さとごオンライン交流会開催。
これからもつながりを大切に

昨年度は情勢の都合により送ることが出来なかった
シャン奨学金も、2024年度は65名に支給できました。
タンボジセンター（ミャンマー・シャン州）では、現在15名
の子どもたちが寮で暮らしながら、生活しています。3月
に開催したさとおやさんとのオンライン交流会では、はに
かんだ笑顔で質問に答えていました。日本語の勉強も
頑張っており、日本語能力試験N5に3名が合格しました。
「将来は日本に行きたい」と夢を語っています。また、
トンガやスリランカでは、さとおやさんが子どもたちに
会いに現地へ行かれ、心の繋がりを深めています。

担当者の声

マ・モー・モー・トゥエ



多くの困難が襲いかかる現在のミャンマーにおいて、
子どもたちが教育を受けることは容易なことでは
ありません。教育を受けるため、たくさんの困難を
乗り越えなければなりません。教育は子どもたちの
将来を大きく左右し、優れたリーダーが生まれる
ための重要な役割を果たします。奨学金のさとおや
さんたちを心から尊敬しています。

実施概要

受益対象者	ミャンマーさとご80人
	スリランカさとご40人
支援者	さとおや会員 144人（団体・個人）
	三井雅史さん

従事者 | 12人